

分析レポート

国内経済金融

地域銀行の寄付型定期預金の動向

寺林 暁良

キャンペーン定期預金の多様性

定期預金は最もシンプルな資産運用手段の一つであるが、顧客のメリットを拡大したり、遊び心をくすぐったりするようなキャンペーン定期預金を販売する金融機関も多い。その内容は多種多様だが、大きくは図表1のように分類できよう。

本稿では、これらの中でも東日本大震災の被災地支援にも活用されたことで注目される、預入額の一定割合を特定の団体等に寄付する定期預金（以下、「寄付型定期預金」とする）の取組み状況や期待される効果を概観してみたい。

寄付型定期預金の商品内容

地域銀行（地方銀行及び第二地方銀行）106 行の寄付型定期預金の取組み状況を確認したところ、2010 年度には、寄付型定期預金は 36 行から 38 商品が発売されていた（図表 2）。そのうち最も多いのは環境保全を対象としたもので、23 商品にのぼった。これらの寄付の対象は、都道府県設置の森林整備基金など、地域の環

境保全を担う自治体・団体に対するものがほとんどであり、寄付した銀行の役職員も寄付先でのボランティア活動に参加するケースもあった。

一方、11 年度は 52 行から 58 商品が発売された。環境保全を対象とした商品は 18 商品に減少したものの、その分、東日本大震災の被災地・復興支援団体への寄付を伴う商品として 29 商品が発売された（図表 3）。

また、地元クラブチームへの強化費用の寄付など、スポーツ振興を目的とした商品や子育て支援基金への寄付を目的とした商品も毎年見られた。

期待される導入の効果

預金増強

寄付型定期預金のほとんどは、顧客にとって金利上乗せと社会貢献という 2 重のメリットがあるため、訴求力の高い預金商品として根付きやすい商品である。実際、これを毎年恒例の商品として定着させている銀行の中には、11 年度の発売

開始から 3 日間で 100 億円の募集額を完売するケースもあった。

また、11 年の寄付型定期預金の募集額の中央値は 120 億円であるが、2011 年度末の地域銀行 106 行の預金残高の前年度末比が平均 999.7 億円であることを勘案すると、規模の面からも無視できないといえよう。

図表1 キャンペーン定期預金の種類

記念型	金融機関の創業周年や地域の歴史的出来事などを記念して発売される金利上乗せ商品。
対象特定型	子育て世代、年金受給者、株主など、対象を特定した金利上乗せ商品。
期間限定型	夏季・冬季の賞与時期など、推進ターゲットとする期間に限定して発売される金利上乗せ商品。
プレゼント型	抽選で御当地商品が当たる、宝くじをプレゼントする、などの特典が付いた商品。
イベント連動型	地元スポーツクラブチームの成績や桜の開花日予想の的中度などによって金利の上乗せ幅が変化する商品。
寄付型	預入れ額の一定割合を環境、医療、スポーツ、災害支援など、特定の分野で活動する団体に寄付する商品。

（資料）筆者作成

図表2 地域銀行における2010年度の寄付型定期預金の概要

実施36行中	件数	募集額(億円)	金利上乗せ幅 (ポイント)	寄付の割合(%)
		(17件)	(22件)	(24件)
環境保全	23	100(30~1,000)	0.01(0~0.2)	0.01(0.01~0.1)
スポーツ振興	5	100(-)	0.125(0.04~0.25)	0.035(0.01~0.05)
地域イベント支援	3	200(-)	0.05(0~0.18)	0.01(0.005~0.02)
子育て支援	3	35(20~50)	0.2(0~0.25)	0.05(0.05~0.05)
災害支援	0	-	-	-
その他	4	120(-)	0.125(0.05~0.2)	0.015(0.05~0.025)
合計	38	100(20~1,000)	0.04(0~0.25)	0.01(0.005~0.1)

(資料) 各行ホームページより作成

(注) 値は、中央値(最小値~最大値)。金利上乗せ幅、寄付の割合は、1年物のみで集計

図表3 地域銀行における2011年度の寄付型定期預金の概要

実施52行中	件数	募集額(億円)	金利上乗せ幅 (ポイント)	寄付の割合(%)
		(31件)	(39件)	(43件)
環境保全	18	200(20~1,000)	0.01(0~0.28)	0.01(0.005~0.025)
スポーツ振興	5	35(20~50)	0.215(0.05~0.25)	0.05(0.01~0.1)
地域イベント支援	3	200(-)	0(-)	0.01(-)
子育て支援	1	50(-)	0.05(-)	0.05(-)
災害支援	29	160(70~500)	0.045(0.01~0.175)	0.05(0.01~0.3)
その他	2	-	-	-
合計	58	120(20~1,000)	0.045(0~0.28)	0.028(0.005~0.3)

(資料) 各行ホームページより作成

(注) 図表2に同じ

CSR・地域密着型金融の推進

寄付型定期預金は、CSR に直結する取り組みであり、ステークホルダーへの重要なアピール手段となる。

また、これらは地域密着型金融を深化させるためのチャンネルとしても重要である。森林整備などの環境保全を目的とした定期預金などの場合、寄付の対象が地元の自治体や団体などである場合が多く、地域貢献と地域社会との関係強化の双方への寄与は非常に大きい。

さらに、東日本大震災の被災地を支援する定期預金のように、社会的なニーズに迅速に応えるツールとしても注目されるべきである。

寄付型定期預金のコスト

寄付型定期預金は、金利の上乗せを伴う場合が多いだけでなく、一定割合の

寄付も行うため、金融機関側の利益を重視した商品とは見なされにくい。しかし、他の定期預金商品よりも高コストの商品だとは必ずしも言えない。

例えば、地域銀行(実施71行)の年金受給者向け定期預金(1年物)の金利上乗せ幅は、11年度の中央値で0.2ポイント、最大値で0.5ポイントである。これと比較すれば、寄付型定期預金のコストは、金利上乗せ分と寄付分を足し合わせてもさほど高水準ではないことが分かる。そのため、商品設計やプロモーションのコストは無視できないものの、推進対象とする顧客層を絞るなどの戦略次第では、相対的に低い預金調達コストで効果を上げられる可能性がある。

この点からも、寄付型定期預金は、単なる色物の商品ではなく、金融機関経営に資する商品と捉えるべきものである。